

令和 7 年 全国広報コンクール受賞・入選作品（神奈川県内）の概要

【横浜市<ウェブサイト>】

【特色・ポイント】

サイトをリニューアルするにあたり、目指すべき方向性を定めるため、コンセプトを設定しました。民間サイトのデザインを参考に、特にスマートフォンで高いUXとなるようなデザインとしました。

■コンセプト

「時間やストレスをかけることなく、誰もが求める情報に容易にアクセスすることができる」、「サイトを通じて横浜に対する愛着・信頼感を感じることができる」の2点をコンセプトにしました。

■モバイルファースト

スマートフォンでの操作性を重視したデザインにしました。画面スクロール時に目が留まりやすくなるよう画像やアイコンを増やすとともに、タップ操作を意識したボタン型のUIを多く採用しています。

■画像が映えるデザイン

画像を使用することによって、「理解しやすい（画像優位性効果）」サイトになるだけでなく、スマートフォンのスクロール操作では画像がアイキャッチになり、情報の見逃しを防ぎます。

これらの画像の効果を最大限発揮することができるよう、民間サイトを参考にしながら、色は多用せず、余白を意識してシンプルなデザインにしました。

■スタイリッシュなカラーリング

白やグレーを基調としながら、アクセントとして青を取り入れることで、画像の映えやページの読みやすさの向上を図りながら、横浜市らしいスタイリッシュなデザインを目指しました。



【講評（令和 7 年全国広報コンクール）】

サイト全体の印象は白とグレーを基調にロゴマークと近いブルー系の文字やアイコンで爽やかな印象に仕上がっている。トップページでは見出しとコンテンツが分かりやすく分類整理されている。白とグレーの背景により情報区分が明確になり、見出しやリンクラベルも見やすく、文章も読みやすい。

グローバルメニューを選ぶとその下に 5～9 個のアイコンとそのタイトルが並び整然と探しやすい。コンテンツページはサイドナビゲーションを表示しないシンプルなレイアウト。ページ内の各領域には明快な見出しと、意図をもって無駄なく配置されたコンテンツが並び、効率的な情報提供が実現されている。また、ユーザーの理解を促す画像が効果的に活用されている。

スマートフォンで見た場合のレイアウトも見やすく使いやすい。カルーセル画像を複数用意するなどの丁寧な作りこみによって、単にスマートフォンで表示できることにとどまらず、快適な閲覧・操作が叶えられている。何を見るべきか、何を見せたのかといった主張も明確で、コンテンツとプレゼンテーションが高度に融合した仕上がりとなっている。

機械翻訳だけでなく、英語、中国語、韓国語については、専用のリビングガイドに関するコンテンツを用意している。

【秦野市「広報はだの」(10月1日号) <1枚写真>】



【掲載意図】

全国削り華のメインイベントとして開催される鉋の薄削り競技。1000分の1ミリメートル単位を競う匠の技術の高さと、それにひたむきに向き合う大工の精悍さを表現しました。主題である大工を引き立てつつ、鉋から現れる削り華を副題として認識してもらおうと、望遠レンズの圧縮効果を利用し、どちらも小さく映らないようにするとともに、削り華を斜線に配置することでリードラインとし、主題への視線誘導を作りました。また、サイドから施したライティングは、表面が透ける角度を試行錯誤しながら、削り華の“薄さ”を強調するとともに、F値の調整とNDフィルターによる減光を組み合わせ、黒抜き表現をすることで、主題である大工が鉋削りに取り組む“孤独な戦い”を表しました。

【講評 (令和7年全国広報コンクール)】

鉋(かな)削りの「匠の技」が見事に表現された一枚。光と影のコントラストが印象的だ。

圧縮効果を意識したレンズ選びに加え、照明やライティングにも高度な技術が感じられ、その完成度の高さは高く評価できる。コントラストの強さが際立ち、細部まで綿密に計算されている。真横からの強めの光量が主人公の真剣な表情を一層印象的にして、真っ黒く見えなくなる影が強調され、良い演出をしている。ボカした削り華の真っ直ぐな直線越しにフォーカスすることで、眼元に視線が集中し、写真全体の迫力がアップしているようだ。

撮影の意図やこだわりが明確に感じられるクオリティの高い作品だ。

【茅ヶ崎市「広報ちがさき」12月1日号<組み写真>】



【掲載意図】

茅ヶ崎市では昨年 10 月から中学校給食が順次スタートしています。表紙のレイアウトは一枚写真ではなく、給食をおいそうに食べている生徒 4 人のさまざまな表情を捉えた組み写真とし、現中学生だけでなく、これから中学生になる子どもたちやその保護者へ、給食の良さ、楽しさが伝わるよう臨場感のある構成となるよう工夫しました。

【講評（令和 7 年全国広報コンクール）】

中学校給食がスタートすることを視覚的に楽しく伝えている作品。給食を食べる生徒をモデルにする構図はよく見ることが、手前に実際の給食を大きくレイアウトすることで紙面にメリハリが生まれ、給食が主人公であることが直感的に伝わってくる。

タイトルまわりにお箸の切り抜きを配置したデザインも洒落ており、料理系雑誌のようなセンスの良さを感じさせている。全体のカラートーンについては、食欲を促す暖色系でまとめられ、リズム感ある配置と構成力が素晴らしい。料理写真を美味しく見せるには光がキーポイントになるが、適度なコントラストと料理の縁などの照りが誌面を見る人々には魅力的に映る。

献立や品質が気になっている保護者のニーズにもしっかり答えた構成となっている。食べる生徒さんたちの様子もそれぞれが違うポーズで、細やかなひと工夫も味が出て良い。

【座間市「【仕事紹介】女性消防官の一日（消防隊編）【完全密着】」<映像>】



【主な内容・あらすじ】

座間市女性消防隊員の 24 時間に密着し、消防車ライトの点検などの通常業務や、様々な想定のもとに行われる訓練、食事、緊急出動、新人教育、講演会などの様子を公開しています。全国的に少ない女性消防隊員の日常の様子や活躍を知ることができるだけでなく、普段は見ることのできない消防隊員たちの日常を、至近距離から見るすることができます。隊員同士の自然体なコミュニケーションなど、消防隊員という職業により親近感が湧くような内容になっています。

【制作意図】

女性消防職員は全消防職員の 3%（全国平均）と多業種と比較しても低水準であり、動画を通して身近に感じてもらうと共に女性が活躍できる職場として認知度を上げることを目的として制作しました。

【講評（令和 7 年全国広報コンクール）】

女性消防官の一日の活動を追いかけたドキュメンタリー。緊迫した現場や訓練風景を通じて、女性消防官のリアルな日常と職業の魅力を密着取材で丁寧に描いている。

新鮮で、どのような訓練や業務を行っているのかわかりやすい。職場にとけ込んでいる様子もリアルで、身近な存在に感じられた。

中の人（消防局）が撮影しているため見せ所を把握した映像がこちよい。テンポ感もよく楽しく見せながら、それでも作業内容は的確に伝え、また仕事だけではなく一日の働きぶりとして親しみのある側面を見せている。

シンプルにかっこよい側面だけではなく、身近に感じられるというところが素晴らしい。また、制作費 0 円ながら再生回数約 2 万回は高く評価できる。